

| 作目名  | 質問                               | 回答   | 参考情報 |
|------|----------------------------------|--|------|
| カンキツ | 園地が浸水した場合どのような影響が考えられますか。        | 樹種共通の回答を参照してください。<br>カンキツでは、園地の排水性が悪く、水が滞留すると、すそ腐れ病の原因となる菌密度の増加が懸念され、秋以降の発生の危険度が高まります。また、褐色腐敗病も発生しやすくなることから、かいう病や黒点病の防除とあわせて適切な殺菌剤散布を行います。   |      |
|      | 園地に土砂が流入して埋まっていますが、どうしたら良いですか。   | 樹種共通の回答を参照してください。<br>カンキツでは、接ぎ木部が埋まると、自根（台木の根でなく、穂木品種の根）が発生し、その後の生育に影響することから、接ぎ木部の土は確実に除去する。穂木部分が埋没したままで放置すると、すそ腐れ病の発生を助長するため注意が必要です。  |      |
|      | 樹が倒伏したり折れたりした場合はどうしたらよいですか。      | 樹種共通の回答を参照してください。  |      |
|      | 樹勢低下がある場合に対処する方法がありますか。          | 樹種共通の回答を参照してください。<br>カンキツでは、着果量を少なくし、夏秋梢の発生を促す必要があります。少なくとも樹冠上部、枝先などの果実は落とし、必要であれば、全摘果します。   |      |
|      | どのような病気の被害が心配されますか？              | かいう病や黒点病の多発が懸念されます。さらなる発病を防ぐために、かいう病では、伝染源となる発病葉・発病枝・発病果実を除去するとともに、発病を助長するミカンハモグリガの防除を徹底します。黒点病では、伝染源となる枯枝を剪除するとともに園外へ持ち出して処分する。園内の枯木や切株も伝染源となるため適宜除去する。まいずれの病害に対しても、降雨が予想される場合は事前に殺菌剤を散布する必要があります。<br>苗疫病は集中豪雨により発生が助長されますので、発生を認めたら直ちに殺菌剤を散布します。すそ腐病が発生した場合は、発病部をナイフで削り取り、ゆ合剤を処理します。 |      |
|      | 殺虫剤を散布できない場合、どのような害虫の被害が心配されますか。 |  |      |
|      | 今後、高温と乾燥が続いた場合、どのような影響が考えられますか。  | 根部が傷み十分に吸水できない状態であれば、干害の発生が懸念される。樹冠上部や枝先部の枯れ症状の発生や葉肉崩壊症、ホウ素欠乏症などの発生に注意が必要です。葉色が淡くなり落葉する場合、可能であれば100L/樹を目安に灌水します。   |      |